

大学英語教育学会（JACET）中部支部 2018 年度春季定例研究会プログラム

日時：2019年3月2日(土) 14時00分～17時45分

会場：名古屋工業大学 11号館2階 1129講義室

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町 JR「鶴舞」駅より徒歩約7分

開会挨拶 14時00分～14時05分 支部長 村田泰美(名城大学)

講演 14時05分～15時05分 司会 岡戸浩子(名城大学)

「グローバル時代のインド英語」

榎木藺鉄也(中京大学)

休憩 15時05分～15時15分

研究会研究発表 15時15分～15時55分

【待遇表現研究会】

「英語インタラクションの指導の試みー成果と課題」

岩田祐子(国際基督教大学)

大谷麻美(京都女子大学)

村田泰美(名城大学)

休憩 15時55分～16時10分

講演 16時10分～17時40分 司会 村田泰美(名城大学)

「インターアクション能力を育てる会話教育のための理論と実践ー日本語教育の例から英語教育へー」

中井陽子(東京外国語大学)

閉会挨拶 17時40分～17時45分 副支部長 佐藤雄大(名古屋外国語大学)

発表概要

講演

14 時 05 分～15 時 05 分

「グローバル時代のインド英語」

榎木 蘭鉄也（中京大学）

私が学部生だった昭和末期はインド英語に接する機会は非常に少なかった。私が接したのは、大学にいたインド人・パキスタン人の教授や留学生の英語くらいだった。昭和時代もインド英語は分かりにくく、私がインド英語の研究を始めたのはパキスタン人教授が時折発する英単語が分かりにくく、その謎を解明したくなったからである。

現在、インターネット等でインド英語にはいつでも接することができるようになった。日本にもインド人やネパール人が押し寄せ、あちこちでヒンディー語やネパール語を耳にする。このようにグローバル化が進んだ現在、インド英語がどう変化したのか。90年代半ば以降、インドで衛星放送が普及して、アメリカ英語に影響されるインド人が倍増した。彼らは gonna, wanna, you guys を使いまくっているが、彼らの発音はやはりインド式で、インド式語彙も平気で使いまくっている。本発表では、変わったようで変わっていないグローバル時代のインド英語について実例を挙げながらお話しをしたい。

【講師紹介】

榎木 蘭鉄也(えのきぞの てつや)

大阪外国語大学インドパキスタン語科卒業、神戸大学大学院教育学研究科修士課程修了。インド Central Institute English and Foreign Languages, Hyderabad (現 EFL University) 博士課程留学、神戸市立工業高等専門学校専任講師、秋田県立大学准教授を経て、現在、中京大学国際英語学部教授(2019年4月から隠居)。研究対象はインド英語とウルドゥー語・ヒンディー語、インドの言語教育政策。おもな業績に『インド英語聞き取りのツボ』(アルク)、『インド英語のリスニング』(研究社)、『現代社会と英語:英語の多様性を見つめて』(金星堂)、『世界の言語政策 第二集・第三集』(くろしお出版)等がある。(Email: htenokizono@yahoo.co.jp)

研究会研究発表

15 時 15 分～15 時 55 分

【待遇表現研究会】

「英語インタラクションの指導の試みー成果と課題」

岩田 祐子（国際基督教大学）

大谷 麻美（京都女子大学）

村田 泰美（名城大学）

待遇表現研究会では、日本語と英語におけるインタラクションの質的違いに着目し研究を進めてきた。研究成果は2015年に『日・英語談話スタイルの対照研究』(ひつじ書房)として出版されている。今回はその成果に基づいて作成された教案、ならびに教案を使った指導について報告をする。また実際に指導を受けて、韓国留学生とソウルで英語会話をを行った日本人学生のビデオを分析し、インタラクションを成功させるためには、英語のインタラクションスタイルの明示的な指導が有効であることを指摘し、今後の課題について考察をする。

「インターアクション能力を育てる会話教育のための理論と実践ー日本語教育の例から英語教育へー」

中井陽子（東京外国語大学）

学習者が目標言語を用いて様々な場面で様々な人と友好的な関係を作りながら自己実現していくためには、インターアクション能力が必要である。インターアクション能力には、語彙・文法等の言語能力だけでなく、会話に参加していく社会言語能力や、実質的な行動を行っていく社会文化能力が含まれる。こうしたインターアクション能力を育てる会話教育にはどのようなものがあるかについて議論する。

まず、インターアクション能力と会話教育に関する理論を紹介する。具体的には、会話授業デザインの枠組み（例：練習・実際使用、学習指導法の4類型、メタ認知力の育成等）について述べる。次に、これらの理論をもとにデザインした日本語教育の授業実践例を紹介する。具体的には、機能別の会話活動、ビジターセッション、プロジェクト活動、会話データ分析活動などである。以上をふまえ、インターアクション能力育成のための英語教育の可能性について検討する。

【講師紹介】

中井陽子(なかい・ようこ)

米国ミネソタ大学大学院修士課程(日本語言語学)修了。修士課程在学中、同大学日本語言語学科にて、日本語の初対面会話の分析を行う。その後、早稲田大学、国際教養大学などで日本語教育、日本語教員養成を行う。日本語のインターアクション能力育成についての研究で、2010年に早稲田大学より博士号取得。2011年から東京外国語大学に着任。

主な著書

- ・尾崎明人・椿由紀子・中井陽子(著)(2010)『日本語教育叢書「つくる」 会話教材を作る』関正昭・土岐哲・平高史也(編)スリーエーネットワーク
- ・中井陽子(2012)『インターアクション能力を育てる日本語の会話教育』ひつじ書房
- ・中井陽子(編著)大場美和子・寅丸真澄・増田将伸・宮崎七湖・尹智鉉(著)(2017)『文献・インタビュー調査から学ぶ会話データ分析の広がり軌跡ー研究から実践までー』ナカニシヤ出版

事務局からのお知らせ

- ☆ 駐車場はありません。公共交通機関をご利用下さい。
- ☆ 当日、第9回中部支部役員会(12:30~13:30)を行います。役員は11号館2階、都市循環会議室にご参集下さい。

会場アクセス

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町 JR「鶴舞」駅より徒歩約7分



定例研究会に関するお問い合わせは、JACET 中部支部事務局までお願いします。

支部事務局:名城大学 藤原康弘研究室内

fujiwara@meijo-u.ac.jp